

寧静館

(同志社大学)



今出川キャンパス「寧静館(ねいせいかん)」が
2023年8月に竣工しました。

館名は改築前の館名である「寧静館」を受け継いでいますが、これは徳富蘇峰により諸葛孔明の言葉「寧静に非ずんば以て遠きを致むるなし」から命名されています。

建物は、鉄筋コンクリート造の地上4階・地下1階・塔屋1階、延床面積は約4,500㎡です。外観は、今出川キャンパスの歴史ある既存校舎群が形成するキャンパスの風景に調和する赤レンガを基調としています。また、南側のエントランスは、旧寧静館のシンボリックな正面ファサードのモチーフを引用した意匠とし、伝統あるキャンパスの記憶を継承しています。地下1階と1階には図書館(新図書館建設期間のみ配置)を、2階から4階には14の教室と1つの会議室を配置しています。教室は、将来の間仕切り変更を見据え、改修工事の自由度が高くなるよう設計されています。

なお、竣工式は、8月25日に総長・理事長、学長をはじめとする大学関係者および設計監理会社(株式会社日建設計)、施工会社(戸田建設株式会社)の出席のもと、同志社礼拝堂にて執り行われました。

聡恵館

(同志社女子大学)



1990年、田辺キャンパス（現・京田辺キャンパス）第3期工事により竣工。知徳館にあった図書館田辺分館を聡恵館に移転させ、演習室や事務室、書庫などを備えた6階建ての建物が完成しました。その後、2005年に西館が完成し、もとの聡恵館（東館）と西館がつながり、分散していた音楽文献室、AVライブラリーも図書館に統合されることになりました。

2018年には増築工事を行い、学生のための創造的学習空間「ラーニング・commons」が開設。図書館と一体化した「ラーニング・commons」は、イベントエリアやグループワークエリア等で構成され、学生が多様な学びに触れて刺激し合えるように、ガラス壁を多用した開放的なスペースとなっています。

また、聡恵館増築部分の外壁には「Veritas liberabit vos（真理はあなたたちを自由にする）」という文字が刻まれています。メディア創造学科の高木毬子教授が「Alverata」というフォントを海外から取り寄せ、文字組みを通して、一文字ずつ間隔を整えて刻まれたものです。伝統的なヨーロッパ中世の手書き文字、刻印や活字の形にインスパイアされ、現代のデザイン思考や知識を織り込んでジェラルド・ウングァー（1942-2018）によりつくられたというこの書体は、“Always rising to a new challenge”を掲げる同志社女子大学の姿勢とも共鳴しています。